別紙②

上の原・ススキ草原の利用と管理の変遷

現代版「入会慣行」・コモンズ形成の試み

2005年10月22日

	～昭和30年代後半～	～昭和40年代～	平成15年～	平成17年	平成18年～
	約200町歩 （大半が国土計画へ売却→ゴルフ場・スキー場）	10町歩	（町／森林塾借地契約） 町グリーンツーリズム戦略推進委員会→森林塾15名委任		（新しいプログラム／構想） ●茅葺き／古民家、諏訪神社 ●古道探訪・復活／エコトレール化 （上の原～各集落のフットパス） ●山川草木虫魚鳥観察会 ●星空ウォッチング ●虫の音鑑賞会 ●野点・吟行会 ●写真・スケッチ大会 ●草原サミット／コンサート
利用／用途 （地元の共有～管理／利用一体）	▼カヤ刈り ▼ハギ採り ▼ワラビ採り（ワラビ粉、食用） ▼カッチキ、カッポシ採取 ▼クゾバ採り ▼山菜採り ※茅葺き…昭和35年最後	★利用放棄 町田工業／カヤ刈り 地域外の人々／山菜、きのこ採取 水くみ・持ち帰り	▼カヤ刈り（地元・塾共働） （町田工業・買上ルール化） ▼フィールドスタディ（塾…森林化・毎木調査） ▼フィールドワーク（塾…カヤ刈り、野焼き他） ▼自然ふれあい学習（小中学校） ▼かんじき雪中散策		？
	カヤバ場・入会地	森林化	グランドデザイン／フィールド整備		上の原活用委員会 （地元／町／塾）
管理／規制	▼山の口明け　…什長協議・6月初旬 ▼カヤの口明け　…什長協議・10月末 ▼ハギの口明け　…秋・彼岸明け ▼クズの口明け　…10月10日 ▼火入れ（野焼き…4月 ※ 昭和25年～40年代 地域の青年団が、 村外の入山者を対象に 「入山証青物採取券」公布 単価・30～100円／人 数10万円／シーズン（→区の特別会計）	★町有林 《管理不在》	▼野焼き復活　…火入れ条例準拠 …地元と共働／参加者拡大 ▼管理道兼散策路づ…草原ルート …森林ルート ▼水飲み場整備 《森林塾管理着手》 ▼案内板・広場門柱等設置 ▼「山の口明け・終い」の復活（地元の指導） ▼清掃活動（3回／年、町の児童・母親参加）		風物誌化 延長（眺望ポイント） 《　？　》 ●散策・観察マップ（藤原ガイドマップ） …案内マニュアルを兼ねる …利用のルールを作る …地元民宿・ペンションでの利用促進 ●藤原案内人クラブの拡充と活用 …塾／民宿・ペンションとの連携強化 …休憩棟利用客の誘致 ●地域外利用者対策 …入山規制／利用料徴収 …管理作業への協力依頼、他

利根川源流アクティブ・エコツアー
ー団塊世代向けー

案内人＝学芸員は地元のみなさん
地元丸ごと博物館のコア